

論壇

難しい年金だけの生活

10月4日は投資の日となっている。トウ(10)シ(4)と語呂合わせしたものだ。この日は大きなイベントもあり、私もパネル討論会などに参加した。

投資という自分とは関係ないと考えている人も多いかもしれないが、投資への姿勢は私たちの生活に大きな影響を及ぼすということを知ってほしい。例えば、そろそろ老後のことを考え始める55歳の人がいるとしよう。年金だけで生活するのは難しいというので、

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

こつこつと貯蓄している人が多いだろう。

55歳の段階で3千万円貯めた人が、それから30年間85歳までに使い切るとすると、毎年いくら使えるだろうか。3千万円というのは少し多すぎると言われるかもしれないが、計算の便宜上そうしただ

か。ここでは金利を0.1%としておく(現実にはもっと低いかもしれない)。この場合には金利がほとんどつかないので、毎年使える金額は、3千万円を30年間で割った金額に近くなる。私の計算だと利子が少しだけついて、毎年使える金額は101万円となる。

老後の人生設計と投資

だけだ。それでも、それを30年間で使うとなると、毎年使える金額は限られる。

どれだけお金が使えるのかは、資産運用での利回りが大きくものをいう。仮にすべてを銀行預金に預けておいたらどうなるだろう

では、1%の利回りで運用をしたらどうだろうか。この場合には、

115万円となる。2%なら131万円、5%なら186万円ということになる。わずか1%の利回りの違いでも、30年間という長い年月となると、これだけ使える金

額に違いがでてくるのだ。もちろん、利回りが高いほどよいと言っているわけではない。高い利回りの金融商品にはそれなりのリスクがあるからだ。老後の生活資金をリスクの高い運用に回すのは好ましいことではない。ただ、多くを預貯金だけに置いておくことでよいのか。ぜひ考えてみてほしい。

お金に「働いてもらう」

平均寿命が長くなっている。90歳ぐらいの高齢者の方はいくらかもいる。寿命が延びることは結構なことだが、どうやって生活をすすめるのかというと、なかなか大変なことになる。22歳から働き始めて67歳で引退するとすれば、45年働

くことになる。その人が92歳で亡くなるのであれば、老後の生活が25年となる。45年の稼ぎで残りの25年の生活を支えたとすれば、これはなかなか大変なことだ。自分で老後の資金を蓄えようとするれば、相当な額を貯蓄しなくてはいけない。年金をあてにする人も多いだろうが、少子高齢化で現役世代が支える力にも限界がある。

そこで、老後はお金に働いてもらうという考え方をする必要があらう。投資によってある程度の老後資金を運用するということだ。投資の日は毎年10月4日である。来年の投資の日までに、人生設計と投資についてじっくりと考えてほしい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。